

第53回日本痛風・尿酸核酸学会
モーニングセミナー

慢性腎臓病進展機序における 高尿酸血症の意義

司会

内田 俊也 先生

帝京平成大学 教授・国際交流センター長

演者

古波蔵 健太郎 先生

琉球大学医学部附属病院 血液浄化療法部 部長・准教授

ご参加の皆様には、お弁当をご用意しております（数に限りがあります）。

日時

2020年2月14日（金） 8:30～9:20

会場

第1会場（1Fメインホール）

北九州国際会議場

〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3-9-30

共催：第53回日本痛風・尿酸核酸学会

株式会社 富士薬品

TPR399058A
2019年12月作成

慢性腎臓病進展機序における 高尿酸血症の意義

古波蔵 健太郎 先生

琉球大学医学部附属病院 血液浄化療法部 部長・准教授

慢性腎臓病（CKD）の進展に伴い尿酸排泄が低下し高尿酸血症の合併率が高くなる。したがってある時点で高尿酸血症を合併したCKDでは高尿酸血症は結果としてもたらされた側面が少なからずある。一方で高尿酸血症に関わる病態は個々の患者ごとに異なっており、腎障害進展における高尿酸血症の関わりも病態によって異なる可能性がある。実臨床の現場では高血圧や糖尿病のほか高尿酸血症が合併することが多く、それらが同時に併存することも少なくない。高尿酸血症と腎障害進展の関連を考える場合、併存症とのinteractionを考慮に入れる必要がある。本セミナーではCKD患者における腎障害進展抑制をいかに効果的に行っていくかという観点から様々な腎障害進展機序における高尿酸血症の意義とそれぞれに対するアプローチについて考えてみたい。